■蘇我馬子 豪族、大臣。物部守屋を攻滅、崇峻天皇を弑殺して推古天皇を擁立、聖徳太子とともに国家を始動させた。
そがのうまこ

551= この頃生まれる。稲目の子。(渡来新羅系?)

560= 9歳 :

569=18歳 :

武略・弁才があり、仏教を信仰し、

572=21歳 : *敏達天皇即位に際し、物部尾輿らと並んで、大臣となり、以後50年にわたって政権中枢に位置する。

..... 574=23歳 : 吉備に派遣され、白猪屯倉の増益と定籍に当り、
575=24歳 : 帰京した。

578=27歳 :

584=33歳 : 百済からの石仏像を宅の東に仏殿をたてて安置し、大会設齋し、

585=34歳 : 大野丘の北に塔を建て、仏舎利を安置した。時に馬子は病にかかり石仏を礼拝したが、疫病が流行し死者が多かったため、物部守屋と中臣勝海は仏教興行の故として馬子を責め、仏像・仏殿を焼いた。のちに敏達と守屋は瘡に病み、死者が国中にみちたため、守屋が仏像を焼いた罪に帰せられた。馬子は三宝の力により病を癒さんと奏し、三尼をうけて精舎を造り供養した。同年、敏達は崩じ、殯宮を大和国広瀬に立て誅した際、馬子と守屋は互いに相手をあざ笑ったので、ここに双方が怨を抱く危機が生じた。馬子は用明朝にも大臣となったが、

586=35歳 : 馬子の甥の穴穂部皇子が守屋に命じ三輪君逆の殺害を企てた時、馬子は天下の乱の近いことを予言し、炊屋姫とともに皇子を恨んだ。

丁未の変・・ 587=36歳 : *用明天皇不予に際し三宝帰依の詔を議したが、馬子は守屋らに反対して詔を奉ずることを主張した。用明崩後、守屋の支援した穴穂部皇子は皇位をねらったが、馬子は敏達皇后の炊屋姫を立てて皇子を殺し、諸皇子・群臣に勸めて守屋征討の軍を起こし、河内国渋川の家を襲って、衣措で守屋を殺した。時人は馬子の妻は守屋の妹で、妻の計により守屋を殺したと評した。崇峻朝にも大臣となり、

..... 588=37歳 : この頃、飛鳥の地に法興寺建立を企て、百済から仏僧・技術者を招き、善信尼らを百済に留学させた。

推古天皇・・ 592=41歳 : *崇峻天皇が自分を嫌っていることを知り、東国進調を詐って東漢駒に命じて崇峻を殺させた。馬子や群臣の推挙により炊屋姫は推古天皇として即位したが、馬子は大臣となり聖徳太子の妃に女の刀自古郎女を、法提郎媛を田村皇子(のちの舒明天皇)妃にいれた。

..... 596=45歳 : 法興寺が完成し、

..... 605=54歳 : 推古の詔により誓願を立て、法興寺に丈六仏2軀を造り始めた。

遣隋使5・・ 614=63歳 : 病をえたため男女1千人を出家させ、

天皇記+国記 620=69歳 : 聖徳太子とともに「天皇記」「国記」などの史書編纂を議した。

聖徳太子没・ 622=71歳 :

征新羅軍派遣 623=72歳 : 推古は新羅征討の謀を馬子と群卿に問い軍を出したが、新羅貢調使の来朝と行き違いになり早計を後悔。

..... 624=73歳 : 僧が自分の祖父を斧で打ったので、推古は馬子を召してその処置を問うた。推古に葛城県は本拠であるため賜わって封県としたいと請うたが許されず、

蘇我馬子没・ 626=74歳 : 没した。

桃原墓に葬られた。飛鳥川の傍の邸宅に庭を設けて小島をもつ小池を造ったので嶋大臣といった。「上宮聖徳法王帝説」では627年薨じたとし、「扶桑略記」には亮年76歳とある。